

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 5 月 21 日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (5/21 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	21.7 °C	3.9 kPa g	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.01 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.5 m ³ /h	31.5 °C	6.53 kPa g	A系： 0.04 Vol%
		給水系：約 1.7 m ³ /h			B系： 0.03 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.4 m ³ /h	28.4 °C	0.23 kPa g	A系： 0.05 Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.05 Vol%

<2. 使用済燃料プールの状況> (5/21 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	21.0 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	18.7 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	18.8 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	20.1 °C

※各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドランジンの注入を適宜実施。

【3号機】

・H26/4/19～ 使用済燃料プール内瓦礫撤去作業のうち、燃料交換機本体撤去作業を実施。

4/23～ 使用済燃料プール循環冷却系については、使用済燃料プール内の燃料交換機本体撤去作業に伴い、4/23～6月上旬の間、原則毎週月曜日 7:00～土曜日 16:00 の間停止予定(停止時間は最長で 129 時間、毎週土曜日 16:00～月曜日 7:00 の間は運転予定)。また、水温は運転上の制限値 65°C に十分な余裕を持った 45°C を超えることがないよう、同冷却系停止前のプール水温度を 29°C 以下として管理する。

<最新の作業実績>

5/17 11:07 冷却系起動(起動後の温度:24.4°C)

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	5/17 9:57 ～ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋)	5/19 10:06 ～ 移送実施中

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (5/21 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	運転中	停止中*1	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

<5. その他>

- H26/1/29～ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。
4/2 挿入が完了した凍結管について凍結を開始し、4/26に全17本の凍結管の挿入作業、そのうち13本のパッカー設置作業が終了したことから、4/28凍結管全17本の凍結運転を開始した。今後、1ヶ月程度で凍結の壁を造成していく予定であり(6月頃完了予定)、凍結状況については、測温管にて確認していく。
- H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
- H26/5/19 集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)と集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋)間のトレンチ内部の水位が同日12:00から同日16:00の約4時間で2461mmから2606mmに上昇したことを確認。このため、至近で行われていた現場作業を確認したところ、集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)と集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋)間トレンチのグラウト充填工事の準備作業として、トレンチ天井部に地表面から4箇所の孔を開ける作業を実施しており、その内、1箇所の孔より地下水と思われる水が流れ込む音を22:55頃確認。これを受けて、トレンチ内部の水を集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)へ移送するとともに、ファイバースコープによるトレンチ内部の状況確認、トレンチ内の水の分析をすることとした。
 - 5/20 0:05 集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)へのトレンチ内部の水の移送を開始し、同日0:15に漏えい等、異常がないことを確認。また、採取したトレンチ内の水の分析結果は以下の通り。
 - 高温焼却炉建屋－プロセス主建屋間トレンチ滞留水(立坑付近)[5/19 23:20 採水]
セシウム 134: 3.7×10^6 Bq/L
セシウム 137: 1.0×10^7 Bq/L
 - 高温焼却炉建屋－プロセス主建屋間トレンチ滞留水(掘削口付近)[5/20 2:20 採水]
セシウム 134: 4.8×10^1 Bq/L
セシウム 137: 1.5×10^2 Bq/Lトレンチ内に流入している水(掘削口付近)の分析結果は焼却工作建屋西側サブドレン水の濃度とほぼ同等であることから、トレンチ内に流入している水は地下水であると判断。なお、トレンチ内に滞留している水は集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)および集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋)に滞留している汚染水の濃度とほぼ同等である。また、5/20 7:00時点のトレンチ内の水位は2447mm。
 - 5/21 3:50 集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)へのトレンチ内部の水の移送を停止。その後、漏えい等の異常がないことを確認。また、5/21 7:00時点のトレンチ内の水位は1226mm。現在、トレンチ内への水の流入箇所について、止水処理を実施中。
- H26/5/21 1～4号機原子炉建屋等への地下水流入抑制対策として設置した地下水バイパス設備については、現状における地下水の水質確認を行うため、4/9より揚水ポンプを順次起動し、試験的に地下水バイパス揚水井から地下水の汲み上げを行ってきた。汲み上げた地下水は、一時貯留タンクに貯留した後に水質確認を行っており、当社および第三者機関による分析結果において、運用目標値を満足していたことから、地下水バイパス揚水井から一時貯留タンクに汲み上げていた地下水について、10:25から12:42にかけて海洋への排水を実施。現場の状況について、パトロールを実施し、12:47に漏えい等の異常がないことを確認。なお、排水量については561m³。
- H26/5/21 汚染水タンクエリアの堰内に溜まった雨水のうち、放射能濃度が暫定排水基準を超える雨水については、鋼製角型タンクや地下貯水槽等に貯蔵しており、暫定排水基準を超える雨水を処理するために設置した放射性物質を除去する逆浸透膜処理装置(RO装置)について、運用を開始。放射能濃度が運用目標値を満足する処理水について、13:22から敷地内へ散水を開始。

【地下水バイパス揚水井の状況】

- 地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。
<最新のサンプリング実績>
 - 大きな変動は確認されていない。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

- <H4エリア周辺のサンプリング実績>
 - 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。
- <福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>
 - 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。
- <H6エリア周辺のサンプリング実績>
 - 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【焼却工作建屋の水位・焼却工作建屋サブドレン水の分析結果】

<トピックス>

- ・H26/4/14～ 集中廃棄物処理施設4カ所(プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、サイトバンカ建屋、焼却工作建屋)のうち、3カ所間において、通常使用していない以下の滞留水移送ラインに設置してある仮設ポンプ(4台)が運転中であり、焼却工作建屋地下1階の全域に滞留水が広がっていることが確認されたことから、常設水位計による常時監視ならびに、焼却工作建屋のサブドレン水の分析を強化中。

<最新の水位>

- ・各建屋内の滞留水の深さについて大きな変化は確認されていない。
[5/21 14:00 時点の各建屋水深]
焼却建屋:深さ 20.0 cm(4/14 移送停止後と比較し、2.4cm 増)
工作建屋:5/16 10:30 回収作業が完了。

<最新のサンプリング実績>

- ・大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上